

プライオリティ

2023. 8. 26

2学期が始まった。この2学期にやりたいことがある。安易な言葉を使えば、働き方改革である。ちょうど、福島市の方針により、学校での紙の印刷を減らす取組が本格化する。今まで紙媒体で配布していたものをメールに添付して送信するようになる。デジタル化である。

私には、「学校経営三か条」なるものがある。その3つめが、「教職員を幸せにする」である。先生方が健康でなければならない。意欲を失ってはいけない。目標をもっていなければならない。そのために環境を整えるのである。先生方の幸せを考えることが、すなわち生徒の幸せにつながる。

働き方改革は、環境を整えることの一環である。では、具体的に何をするのか。業務量が減ればいいのだが、現実はそのようになっていない。毎日届くメールの量、コロナ禍を経ても存続している組織や団体の数の多さ、不登校やいじめの対応など、枚挙にいとまがない。

その一方で、毎月、超過勤務時間の短縮化を迫られている。どうすればよいのか。一つは「なくす」という発想である。コロナ禍の3年もの間、活動せずに済んだ組織や団体はなくしても支障はないかもしれない。検討もせずに、復活させるのはやめた方がよい。だが、今まであったものをなくすとなると、厄介である。そう簡単に、事は進まない。

業務量は減らずに、勤務時間を短縮するには、業務の効率化などを進めるしかない。私が、今の学校に勤務して、1年目の終わりには、校務分掌を大きく変えた。一つの業務に携わる人数も減らした。とりあえず名前が入っているという状態をなくした。PTAの組織もスリム化し、担当教員の数を減らした。

また、水曜日をノー部活動デーとした。平日2時間、休日3時間の活動時間を守ることを徹底した。その結果、中体連大会はどうなったのか。今までよりも県大会に出場するチームや選手が増えた。東北大会への出場も増えた。

これらのことは、大きなことではないかもしれないが、小さな一歩ではある。あまり声高に言う人はいないが、業務の効率化は個人の問題でもある。職員室の机の上がきれいな先生、パソコンのデータがフォルダごとに整理されている先生、配布物など紙媒体のものをファイルごとに綴じている先生、スケジュール帳にメモしながら仕事を進める先生は、一般的に仕事が早く正確である。

一方、そうではない先生はというと、やはりそうなる。効率化のキーワードは、「プライオリティ」である。すなわち、物事の優先順位である。多くの仕事を短時間でこなすには、優先順位が必要である。優先順位をつけられるということは、見通しがもてるということである。

どうしたら、プライオリティを考えられるようになるのか。たぶん、その人によって少しずつ違う。一番は、効率よく仕事をしようとしているかであろう。意識の問題である。教員は、ここが弱い。この2学期は、先生方の意識を変えることにチャレンジしたい。授業改善以上にむずかしいかもしれない。だが、やってみる価値はあるし、やらなければならない。